

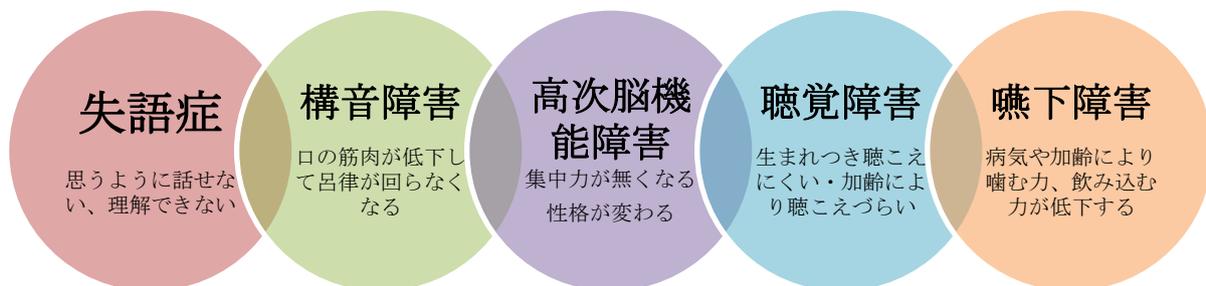


◇ 今回は、言語聴覚士の近藤さやかさん（愛知淑徳大学卒）のレポートです！

私は現在、奈良県にある平成まほろば病院にて言語聴覚士として働き始めて2年目になる24歳です。この病院にいたるまでの進路選択から学生生活について今回お話ししたいと思います。

● はじめに

言語聴覚士という職業をご存じですか？



私たちは、当たり前「話す」「聴く」「読む」「書く」「考える」「食べる」ということができます。しかし、事故や脳梗塞・脳出血、老化等で、当たり前にできていたことが障害となる方たちがいます。また、生まれ持って「耳が聞こえない」「言葉の発達が遅い」「発達障害」「脳性麻痺」などハンディを背負った方たちもいます。そういった方たちに対してリハビリを行うのが言語聴覚士です。

この職種を知ったのは高校3年生の病院見学でした。将来の夢が明確に決まっていなかった私は、漠然と【人の為に働きたい】という思いのみがあり、看護師という職種にも憧れをもっていました。この病院見学を通し、看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の4つの職種を知ることができました。その中で、言葉を使用するため女性である私が結婚・出産をしても続けやすい職種で、なおかつ、幅広い分野で活躍することができ、患者様の回復の手伝いができる言語聴覚士という職業に魅力を感じました。言語聴覚士になるための大学は私の時代はとて少なく、国公立大学は1校、私大は東海3県の中で愛知に2校程度でした。そのなかで、推薦入試を利用し、愛知県にある愛知淑徳大学健康医療科学部医療貢献学科言語聴覚学専攻へ進学しました。

● 大学生活

大学生活を振り返ると、4年制大学でゆっくり学ぶことができ本当に良かったと思います。アルバイトをして、旅行をして、勉強して、充実した学生生活を送ることができました。1、2年生はほどほどに遊び、3年生から4年生にかけては資格習得のための国家試験勉強や、実習を乗り越えるための勉強を人生の中で一番しました。

勉強というのは受け身であるものではなく自らが疑問をもちそれを解決することにより定着していくものだと身にしみた4年間でもありました。また、ゼミの仲間と学び合い、競い合ったことでこの資格

を習得できたと思います。高校ではあまり馴染みのないグループ学習は、お互いを刺激し、自分の注目した個所ではない部分を仲間から教えてもらえるためすごくいいものだと思います。

※ゼミの仲間



● 就職

私は現在、平成まほろば病院に奨学金制度を利用して入職させていただいています。学費を一部支払っていただく代わりに何年か務めるという制度で、金銭的負担も少なく大変有難いです。その制度を利用しようと思ったきっかけは、両親の金銭的負担を減らしたいと思ったからと親元を離れてチャレンジしたいという思いがあったからです。

入職することになった病院は回復期病院でリハビリを専門に行う病院です。信頼できる上司と気さくな先輩方のもとで日々精進しています。患者様の病状は十人十色で、1人1人にあたりハビリを考えます。できていなかったことができるようになった時や、患者様から感謝の言葉をいただいたとき、大変やりがいを感じます。



※平成まほろば病院



※リハビリ風景

● 高校時代を振り返って伝えたいこと

高校生活は、勉強も部活動も不完全燃焼に終わってしまった印象です。しかし、いま振り返ると思うことがひとつあります。関高校に入学し、病院見学に参加していなければ現在の私はいません。何気なく参加した病院見学が、自分の将来の職業を決定するなんて思ってもみませんでした。

何気なく参加した病院見学をはじめ、高校生活（部活動での悔しい体験・楽しかった体験・思うように勉強できなかった自分・出会った友達、先生）、振り返るといいことも悪いこともすべて自分の糧になっていると思います。人生の経験の中で無駄なことはないです。どんどんいろんなことにチャレンジして経験をたくさん積んでほしいです。何かアクションを起こさなければ自分の経験値は平行線です。だから、在校生の皆さんを始め、この記事を読んでもくださる皆様には、経験値を上げるために様々な事にチャレンジして頂きたいです。

皆様の今後のご発展をお祈り申し上げます。最後まで読んでくださってありがとうございました。